

平成30年度事業報告

1. 文化財の研究事業

文化財調査業務、保存処理業務等の中で課題となった問題点や、業務の過程で蓄積されたデータを基礎に、そこから生まれた着想、着眼点を発展させた研究活動や受託研究事業を行っている。

また、他機関との連携協力による研究活動など対外的な研究交流活動も積極的に進め、研究成果の還元は学会、研究会等での発表・報告、講演会等で行っている。

科学研究費助成事業

当研究所に所属する研究員は、科学研究費助成事業の出願が可能であり、個人・グループを問わず積極的に申請して文化財に関する研究活動を進め学会に寄与している。

科学研究費は研究者に対する補助金であるが、その管理はその所属機関に任されている。また、助成事業の実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、主要な科学研究費については直接経費の30%が科学研究費間接経費として機関に措置される。

平成30年度科学研究費は継続課題として、科学研究費補助金によるものが2件、学術研究助成基金助成金によるものが6件、一部学術研究助成基金となっているものが1件であった。

(1) 継続研究課題

<補助金>

基盤研究(B)

「出土木製品マイクロ波加熱凍結乾燥処理法の実用化研究」

平成29～令和2年度 川本耕三 13,700 千円 (研究期間合計額)

「海外文化財輸送技術との比較による日本の文化財輸送技術の発展に関する研究」

平成29～令和2年度 雨森久晃 11,600 千円 (研究期間合計額)

<基金>

基盤研究(C) 一般

「東アジアにおける甲冑の変遷と祭祀利用の実態解明に関する基礎的研究」

平成27～30年度 塚本敏夫 3,600 千円 (研究期間合計額)

「超微細気泡(ナノバブル)を用いた保存処理方法の構築」

平成28～30年度 山田卓司 3,700 千円 (研究期間合計額)

「疑似出土木材の調製」

平成29～令和元年度 山口繁生 3,400 千円 (研究期間合計額)

挑戦的萌芽研究

「ルビジウム・ストロンチウム放射壊変系による出土琥珀の産地推定」

平成28～30年度 植田直見 2,700 千円 (研究期間合計額)

若手研究（B）

「鎔情報に基づく戦後復興期消滅古墳副葬品配列の復元研究」

平成28～30年度 初村武寛 1,700 千円（研究期間合計額）

「施釉陶器色調計測の基礎的研究」

平成28～30年度 田中由理 1,400 千円（研究期間合計額）

<一部基金>

基盤研究（B）一般

「日本中世における葬送墓制の総括的研究」

平成26～30年度 狭川真一 11,900 千円（研究期間合計額）

学術研究助成基金助成金は研究期間全体の合計額で採択されるため、単年度の研究費は明記していない。

2. 文化財の調査・整理事業

文化財調査研究グループ

人文科学分野

奈良県桜井市 総本山長谷寺	文化財等保存調査事業
大阪市 四天王寺	境内所在石造物の石材同定及び状態調査業務
大阪府高槻市教育委員会	平成30年度高槻市立しろあ歴史館古文書史料概要調査業務
大阪府松原市	市内文化財総合調査業務委託
香川県琴平町金刀比羅宮	平成29年度重要有形民俗文化財「金毘羅庶民信仰資料」修理関連調査業務（期間延長事業）
香川県	札所寺院の史跡指定に係る八栗寺文化財詳細調査
	札所寺院の史跡指定に係る金倉寺文化財詳細調査
	札所寺院の史跡指定に係る志度寺文化財詳細調査
愛媛県	平成30年度札所の文化財詳細調査業務
	平成30年度札所の文化財詳細調査業務（その2）

寺院を対象とする継続的な総合調査事業として、長谷寺の文化財等保存調査事業では、古文書・古記録、聖教類、繊維製品、石造物、工芸品などについての調査・整理を実施した。四天王寺では、これまで調査を実施した、境内所在石造物の石材同定とそれぞれの状態調査を実施した。高槻市事業は、古文書の概要調査を実施した。

また、松原市では融通念仏宗来迎寺の総合調査を実施した。

四国遍路札所寺院の文化財詳細調査は、建造物、石造物、絵画、工芸、彫刻、古文書・古記録、聖教等を対象とするものである。香川県では八栗寺、金倉寺、志度寺の調査を実施して完了した。愛媛県では大寶寺、岩屋寺、浄瑠璃寺、浄土寺を実施した。

考古学分野

大阪府松原市	立部遺跡出土蔵骨器分析業務
大阪府四天王寺	亀井堂石造物調査報告書作成業務委託
(株) 松原興産	平安京左京九条三坊九町発掘調査整理報告業務
(株) プレサンスコーポレーション	平安京左京六条二坊十二町発掘調査整理報告業務
(株) 井上地所	藤原京右京十条三・四坊発掘調査報告書作成業務
(株) コスモス薬品	藤原京左京二条四坊、出合・膳夫遺跡発掘調査整理報告書作成業務
(株) 京セラ	野洲市市三宅東遺跡発掘調査業務
和歌山県有田川町	湯浅氏関連石造物調査業務
和歌山県高野町	平成30年度高野山奥之院基礎資料整理業務

発掘調査は3件行った。平安京左京六条二坊十二町発掘調査整理報告業務は平成29年度末から平成30年度4月にかけて調査を行い、11世紀後半の貴族宅地を検出した。中でも景石と築山を配置した庭園を検出したことは特筆される。報告書は令和元年度に刊行予定である。

藤原京右京十条三・四坊発掘調査報告書作成業務は藤原京時代の条坊道路（西三坊大路）や掘立柱建物を検出したほか、新羅土器などが出土した。令和元年度末報告書刊行予定である。

野洲市市三宅東遺跡発掘調査業務は野洲市教育委員会の業務支援として調査を行い、弥生時代中期の大型方形周溝墓など多くの遺構を検出した。

発掘調査報告書作成業務は3件を受託した。平安京左京九条三坊九町は平成29年度に行った調査の報告書である。八条院の恒久住宅に付随する施設と考えられる空間を検出し、平安京初出土となるガラス製水滴など特殊な遺物が出土した。

藤原京左京二条四坊、出合・膳夫遺跡は、古墳時代初頭の流路と藤原京時代の倉庫建物を報告した。

大阪府松原市立部遺跡出土蔵骨器分析業務では、9世紀前半の須恵器製蔵骨器の人骨を取り上げ、部位・年齢推定、年代測定、同位体分析などを行い、被葬者が遠方で死亡した高位の官人であると結論付けた。

大阪府四天王寺亀井堂石造物調査では、亀形石槽の実測、石材調査、類例調査を行い、これが7世紀の遺品であることを明らかにし、報告書を刊行した。

和歌山県有田川町湯浅氏関連石造物調査業務では、鎌倉時代から南北朝時代の著名な武士団である湯浅氏に係る城郭の国指定史跡指定を目指した調査の一環として、関連する石造物の調査を行った。

高野山奥之院基礎資料整理業務は、国指定史跡高野山奥之院の保護活用のために奥之院大名墓の悉皆調査を行い、インデックスとしての悉皆調査報告書を刊行した。

このほかに唐招提寺からの依頼で、唐招提寺中興二世證玄和尚上の蔵骨器を調査し、證玄以外に2名の弟子が納められた特殊な蔵骨器であることを明らかにした。

記録資料分野

国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）

所蔵資料の状態調査

平成18年度より継続している国立歴史民俗博物館所蔵資料のコンディション調査は、13年目の年度を完了した。歴博内では館内業務として位置づけられ資料係からの調査委託事業となっている。平成30年度は平成29年度に引き続き現地調査員1名を駐在させ、当所研究員の指導のもと「裸潜水漁撈及び蛸漁関係用具」「大正・昭和期消費生活関係資料」等のコレクションの調査を実施した。

保存科学研究グループ

（公財）大阪府文化財センター

大阪府立近つ飛鳥博物館（大阪府太子町）所蔵大修羅の保存状態調査

京都府舞鶴市

舞鶴引揚記念館収蔵ユネスコ世界記録遺産登録資料展示・収蔵環境調査業務

平成9年度以来近つ飛鳥博物館の展示室内で大修羅の寸法計測や状態調査を継続している。部分的な補填材の経年劣化等は見られるものの概ね良好な状態である。

舞鶴引揚記念館では収蔵庫及び展示室における昆虫類生息調査を行い、昆虫類侵入に注意すべき時期等を明らかにして施設の改善点を提案した。

奈良市補助金事業 仏教民俗資料の収集調査

奈良市内における主要石造物の詳細調査を実施し、当方の『研究報告』に逐次掲載する形で公表を行ってきた。

平成30年度は、須川町神宮寺所在の宝篋印塔を調査した。実測調査の結果、相輪の一部を欠失するほかは当初の姿を留めるもので、笠部上位が階段状に作らず屋根風の勾配になるという特徴がある。しかし、計測と細部観察の結果、当初は6段の階段に作る計画だったが何らかの事情で階段状に作れず、現状のような形にした可能性が強いと判断した。また、基礎と笠の部材が一般的な塔と比べて石材が細かく分かれるという特徴があり、これは古式の宝篋印塔に多いものである。その分割の系譜は唐招提寺鑑真供養塔や奈良国立博物館前庭塔に共通するものだが、塔身各面の梵字等の表記法は大和郡山市額安寺塔の系譜を引くものと考えられ、両方の影響下に成立したものと考えられる。年代は額安寺塔（1260年）より少し遅れるが、13世紀後期でも古い段階のものと考えられる。また、隅飾の一部に石材獲得時の矢穴の痕跡がみられた。

なお、この成果は令和元年度に刊行する『研究報告2019』に掲載する予定となっている。

3. 文化財の分析事業

保存科学研究グループ

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）

国宝荒神谷遺跡出土青銅製品に係る分析

茨木県土浦市

武者塚古墳出土毛髪（毛髪）の分析

鹿児島県志布志市

原田3号地下式横穴墓出土遺物の分析

岩崎家ゆかり建物保存会（東京都）

静嘉堂文庫美術館所蔵銅鼎（かなえ）の調査・分析

埋蔵文化財では、国宝神庭荒神谷遺跡出土銅剣の本格処理に際し、応急処理時に含浸されたアクリル樹脂の劣化について、熱分解ガスクロマトグラフ質量分析法、核磁気共鳴法等による詳細な調査を行った。また、重要文化財武者塚古墳出土毛髪について走査型電子顕微鏡を用いた分析を行い、鹿児島県志布志市の原田3号地下式横穴墓出土遺物について、電子プローブマイクロアナライザによる鉄斧・鉄槍の元素分析、蛍光X線分析による赤色顔料の元素分析、マイクロ스코プによる短甲・鉄剣付着有機質の観察を行った。

伝世文化財では、静嘉堂文庫美術館の銅鼎について蛍光X線分析による組成分析、X線回折装置・フーリエ変換赤外分光分析装置による鼎付着物の分析を行った。

4. 文化財の保存修復事業

文化財調査研究グループ

記録資料分野

京都府京都市

京都市指定文化財「京都市参事会文書」の修復

高知県立美術館

絵金派屏風の修復

舞鶴引揚記念館

ユネスコ世界記憶遺産登録資料 絵画資料の修復

大阪府豊中市

高校野球ペナントの修復

大阪府河内長野市

図書、卷子、引き札などの修復

名古屋大学

「高木家文書」 御用日記の修復

新潟県十日町市

「下川手教育資料」の保存処理

文書・絵図類の修復は漉嵌法（すきばめほう）を中心に進めており、河内長野市や名古屋大学などの古文書の修復を実施した。平成30年度は明治150年記念事業が各地で実施されたが、「京都市参事会文書」もその一環である。近現代公文書綴には多種多様な用紙や記録素材が混在する中で、それぞれの劣化症状に合わせた処置を実施し、配架に適した保存箱を作製収納した。また大正から戦後にかけての児童の絵画や手習いが残されている「下川手教育資料」は展示等にも活用されており、適切な保存処理を施し、筆筒収納のための保存箱を作製した。豊中市で保管されていた高校野球ペナントは、裂地の補強と展示のためマウントに収納した。

舞鶴引揚記念館所蔵ユネスコ世界記憶遺産登録資料は、平成28年度の状態調査以降、順次保存処理を続けており、平成30年度は水彩画等の絵画資料の保存処理と額縁UVカットアクリル板の入替えなどの保護措置を行った。

彩色資料では高知県立美術館所蔵の絵金派屏風の解体修復を行った。

伝世資料分野

石川県能登町	重要有形民俗文化財能登内浦のドブネ保存修復業務
鎌田共済会郷土博物館	重要文化財「久米通賢 くめつうけん 関係資料」の保存修復
岩手県陸前高田市	被災国登録有形民俗文化財等修理業務
徳島県鳴門市	ドイツ兵の慰霊碑の保存修復業務
和歌山市	不老橋等修復事業

能登町は、前年度で新収蔵展示施設に移動したドブネ3隻の内1隻について現地でクリーニング・防錆作業を行った。また、船具類5点についても研究所で保存修復作業を行った。

香川県坂出市に所在する鎌田共済会郷土博物館所蔵の重要文化財「久米通賢くめつうけん関係資料」のうち、地球儀や天球儀、自然水（水車）など9点を修復し返却を行い、事業を完了した。

陸前高田市は、平成30年度についても、東日本大震災による被災資料陸前高田市立博物館所蔵の国登録漁撈用具及び収蔵資料について30点の除菌洗浄・脱塩作業・修復し事業を完了した。

平成30年10月に国史跡に指定された鳴門市に所在する坂東俘虜収容所ばんどうふりょしゅうようじょ跡にあるドイツ兵慰霊碑（石造品）の石材強化及び強化補填等の保存修復作業を現地で行い、事業を完了した。

国指定名勝「和歌の浦」の構成要素で和歌山市指定文化財である石造橋「不老橋」の保存修復事業を平成30年度においては、河口側欄干の保存修復を現地作業で行い、事業を完了した。

文化財調査研究グループ

出土木製品分野

福井県立若狭歴史博物館（小浜市）	重要文化財鳥浜貝塚出土品の保存修理
広島県立歴史博物館（福山市）	重要文化財草戸千軒町遺跡出土品の保存修理
徳島県	重要文化財観音寺・敷地遺跡出土品の保存修理
兵庫県西宮市	高畑町遺跡出土品の保存処理
石川県能登町	真脇遺跡出土品の保存処理
熊本県熊本市	上代町遺跡群出土品の保存処理
熊本県	曾畑貝塚出土植物性遺物の保存処理

重要文化財の修理に関しては、福井県若狭町鳥浜貝塚（縄文時代）、福山市草戸千軒町遺跡（鎌倉～室町時代）、徳島県板野町観音寺・敷地遺跡（飛鳥～平安時代）の出土品について保存修理や保管台の作製を行った。

他に兵庫県西宮市高畑町遺跡（弥生～室町時代）、石川県能登町真脇遺跡（縄文時代前期～晩期）、熊本県熊本市上代町遺跡群（弥生～古墳時代）の出土品の保存処理や平成3年度から平成6年度にわたり保存処理を行なった熊本県宇土市曾畑貝塚遺跡（縄文時代前期）出土植物性遺物の再修理を実施した。

出土金属製品分野

文化庁（島根県立古代出雲文化博物館保管）

国宝荒神谷遺跡出土品保存修理

福岡県宗像大社

国宝沖ノ島祭祀遺跡出土品保存修理

茨城県土浦市

重要文化財武者塚古墳出土品保存修理

広島県立歴史博物館（福山市）

重要文化財広島県草戸千軒町遺跡出土品保存修理

文化庁（兵庫県立博物館保管）

重要文化財箕谷2号墳出土品保存修理

大阪府豊中市

重要文化財摂津豊中大塚古墳出土品保存修理

福岡県行橋市

重要文化財福岡県稲童古墳群出土品保存修理

兵庫県朝来市

重要文化財茶すり山古墳出土品保存修理

宮崎県えびの市

重要文化財島内地下式横穴墓群出土品保存修理

国宝の保存修理では、島根県出雲市・荒神谷遺跡（弥生時代）出土銅剣の保存修理（第2期：平成29年度から令和2年度まで実施予定）、福岡県宗像市・沖ノ島祭祀遺跡（宗像大社所蔵・古墳時代から奈良時代）出土金属製品（第2期：平成30年度から令和2年度まで実施予定）の保存修理を実施した。

重要文化財では、茨城県土浦市・武者塚古墳（古墳時代後期）、広島県福山市・草戸千軒町遺跡（中世）、兵庫県養父市・箕谷2号墳（古墳時代後期）、大阪府豊中市・摂津豊中大塚古墳（古墳時代中期）、福岡県行橋市・稲童古墳群（古墳時代中期）の各遺跡出土金属製品について、保存修理と保管台の作製を行い、兵庫県朝来市・茶すり山古墳（古墳時代中期）、宮崎県えびの市・島内地下式横穴墓群（古墳時代中期）の出土金属製品について、保存修理を実施した。

土器・3D分野

山形県

重要文化財山形県水木田遺跡出土品保存修理

常陸大宮市

重要文化財茨城県泉坂下遺跡出土品保存修理

奈良県立橿原考古学研究所

重要文化財奈良県メスリ山古墳出土品保存修理

徳島県

重要文化財徳島県観音寺・敷地遺跡出土品保存修理

学校法人関西大学

重要美術品長門和同開珎鑄銭司の鑄型の保存修理

鳥取市

栗谷遺跡出土縄文土器レプリカ作製

株式会社乃村工藝社

名古屋市歴史の里ガイダンス施設用復元模造品製作

宗教法人柿本神社

森狙仙筆「猿の図」のデジタル高精細複製作製

国指定文化財の修理としては、昨年度から引き続いて山形県水木田遺跡出土の縄文土器5点の保存修理を行った。他に、茨城県泉坂下遺跡出土の弥生土器5点の保存修理や、徳島県観音寺・敷地遺跡出土の風字硯1点の保存修理、関西大学所蔵の長門和同開珎鑄銭司の鑄型の保存修理を行った。

また、奈良県メスリ山古墳出土の全高240cmを超える大型有段口縁円筒埴輪の保存修理を行い、本件は令和元年度も引き続いて実施する。

レプリカ及び模造品の製作としては、重要文化財鳥取県栗谷遺跡出土縄文土器のレプリカ製作事業を実施した。また、株式会社乃村工藝社より受託し、愛知県志段味大塚古墳出土の甲冑・馬具・大刀などの模造品を製作し、名古屋市の展示施設に納品した。他に、平成29年度から引き続いて兵庫県明石市柿本神社所蔵の森狙仙筆「猿の図」のデジタル高精細複製の製作を行った。

また、当室では三次元計測等の事業も継続して行っており、平成30年度は平成29年度から引き続いて国宝島根県荒神谷遺跡出土品の三次元計測及び保管台の改修事業を実施した。

5. 研究会、展覧会、講演会の開催及び開催支援事業

展覧会の開催

春季企画展（元興寺創建千三百年記念企画展）

『佛法元興—法興寺の遺産・元興寺への道程—』

※真言律宗元興寺、華嚴宗元興寺、真言律宗小塔院と共催

開催期間 平成30年4月28日(土)～5月27日(日)

開催場所 真言律宗元興寺法輪館 入館者数 12,364名

平成30年に元興寺が平城京に創建されてから1300年となった。

元興寺の前身である法興寺（飛鳥寺）は「仏法元興の場 聖教最初の地」として聖徳太子や推古天皇による仏法興隆の中心となった日本で最も古い本格的な寺院である。

本展では、元興寺創建の前史として、法興寺の実像に出土遺物などから迫るとともに、関連寺院をはじめ各地に残された法興寺にまつわる有形無形の文化遺産を紹介し、元興寺創建への道程を展望した。

関連シンポジウム「仏法元興—法興寺創建とその時代」

開催日 平成30年4月22日(日)

開催場所 ならまちセンター 市民ホール

参加者数 約200名

文献史学、考古学、建築史学の各分野の第一線の研究者を招き、法興寺の創建と展開、そして元興寺への道程を多角的に検討し、その歴史的意義を考えた。

講演 『法興寺の造営』

東野治之(文化功労者・武田科学振興財団杏雨書屋館長)

『飛鳥の“まちづくり”は法興寺創建から始まった』

黒崎 直(大阪府立弥生文化博物館館長、当研究所評議員)

『法興寺と飛鳥時代の建築』

箱崎和久(奈良文化財研究所遺構研究室長)

パネルディスカッション 東野治之、黒崎 直、箱崎和久

司会 狭川真一(当研究所副所長)

関連特別講演会「法興寺の遺産・元興寺への道程」

開催日 平成30年5月6日(日)

開催場所 明日香村立中央公民館

参加者数 約150名

日本史そして日本仏教史に大きな足跡を残した法興寺と元興寺への理解を深めるために特別講演会を開催した。座談会では、法興寺の歴史そして法興寺と元興寺を介した飛鳥と奈良の深い結びつきを振り返り、その遺産を継承し、かつ活かしてゆくべく、将来への展望を語り合った。

特別講演 『法興寺の光と影』 里中満智子(漫画家・大阪芸術大学教授)
講演 『法興寺創建』 相原嘉之(明日香村教育委員会文化財課長)
講演 『元興寺創建』 狭川真一(当研究所副所長)
座談会 里中満智子、森川裕一(明日香村長)、植島寶照(飛鳥寺住職)、
辻村泰善(当研究所理事長)
コーディネーター 柳林修(元読売新聞大阪本社編集委員)
オブザーバー 相原嘉之、狭川真一

同時開催 飛鳥寺「元興寺 古瓦・古材 千三百年ぶりの里帰り」展

開催期間 平成30年4月28日(日)～5月27日(日)

開催場所 飛鳥寺 宝物展示室

法興寺の移転とともに1300年前に元興寺に移され、今日に伝えられてきた古瓦と古材を、ふるさと飛鳥寺に里帰りさせ本堂宝物展示室で展観した。

秋季特別展

『大元興寺展』(元興寺創建千三百年記念特別展)

※真言律宗元興寺、華嚴宗元興寺、真言律宗小塔院と共催

開催期間 平成30年9月13日(木)～11月11日(日)

開催場所 真言律宗元興寺法輪館 入館者数 24,836名

元興寺創建千三百年慶賛行事の一環として、関連文化財を一堂に集め、元興寺の歴史を概観する展覧会を開催した。特別展では、元興寺の創建からの歴史を総合的にとりあげた。

元興寺は、養老2年(718)に飛鳥から移されて国家的寺院として建立された後、中世を通じて全体として寺勢は衰えていった。しかし大伽藍には「ならまち」につながる都市奈良が形成され、元興寺の一部は都市寺院として活況を呈し、近世、近代へと法灯を伝えてきた。

本展では、元興寺ゆかりの寺院や諸機関の協力のもと、出土遺物や彫刻、絵画、古文書などの各種資料によって、古代は国家的寺院として、そして中世以降は都市奈良の中で存立してきた元興寺の歴史を振り返った。

関連講演会・対談「未来に受け継ぐ、元興寺の信仰・伝承・文化財」

開催日 平成30年9月15日(土)

開催場所 ならまちセンター市民ホール

参加者数 約150名

元興寺は、創建されてから平城京、都市奈良の中で存立し、その旧寺域は今日の「ならまち」の土台にもなった。平成10年(1998)には「古都奈良の文化財」の一つとして世界文化遺産に登録され、その価値は広く知られるに至っている。

創建千三百年を迎え、いま改めて未来に継承すべき元興寺の歴史的、文化的価値を語り合った。

第1部「元興寺の鬼伝説」

講演 ^{おうか}逢香(妖怪書家)

妖怪トーク 逢香、角南聡一郎(当研究所総括研究員)

第2部「元興寺の歴史と信仰」

講演 西山厚(帝塚山大学文化創造学部教授)

対談 西山厚、狭川真一(当研究所副所長)

関連シンポジウム「平城京と元興寺ーその創建とうつり変わりー」

開催日 平成30年9月29日(土)

開催場所 ならまちセンター市民ホール

参加者数 約150名

元興寺は、養老2年(718)年に創建されて以来、国家的寺院、そして中世の都市寺院として個性的な歴史をたどってきた。シンポジウムでは、古代元興寺の創建、展開と、中世寺院への変容について、今日の寺院史研究を踏まえて、文献史学、考古学双方の視角からその実態と位置づけを探った。

講演 『法興寺から元興寺へ』

東野治之(文化功労者・武田科学振興財団 ^{きょううしよおく}杏雨書屋館長)

『遷都にともなう寺院の移転と元興寺』

上原 ^{まひと}真人(辰馬考古資料館館長、京都大学名誉教授)

『元興寺の中世化ー古代官寺から中世的都市寺院へー』

横内 ^{ひろと}裕人(京都府立大学文学部教授)

パネルディスカッション 東野治之、横内裕人、上原真人

藤澤典彦(当研究所評議員、元大阪大谷大学教授)

元興寺創建千三百年『大元興寺諸仏展』

※真言律宗元興寺、華嚴宗元興寺、真言律宗小塔院と共催

開催期間 平成30年9月13日(木)～9月27日(木)

開催場所 真言律宗元興寺法輪館

「平成30年(2018)は、養老2年(718)に元興寺が平城京に創建されてから1300年になることを記念し、真言律宗元興寺・華嚴宗元興寺・真言律宗小塔院、及び元興寺文化財研究所は慶讃行事の一環として、真言律宗元興寺法輪館において『大元興寺諸仏展』を企画・実施した。

同展は秋季特別展『大元興寺展』に連動し、1300年に及ぶ元興寺の歴史を概観することを主眼として行われたもので、薬師如来立像(国宝／華嚴宗元興寺)・十一面観音菩薩立像(重文／華嚴宗元興寺)・釈迦如来立像(重文／奈良国立博物館:小塔院旧蔵)が一堂に会した創建以来初めてとなる得難い機会となった。

開催日前日には『元興寺千三百年大元興寺諸仏ご帰還記念法要』が執り行われた。

文化講座の開催

元興寺文化財研究所の実践文化財学

—講座編—「元興寺創建千三百年 その歴史と寺宝」

創建千三百年を迎えた元興寺の歴史と所蔵文化財についての連続講座を開催し、元興寺文化財研究所が創立以来半世紀にわたって行ってきた元興寺の歴史や文化財に関する人文、考古、保存科学などの各分野からの多面的調査や研究の蓄積と最新の成果を、研究所 研究員がわかりやすく解説を行った。

4月11日	「飛鳥寺塔心礎跡出土品が語る古代史」	塚本敏夫
5月9日	「仏法東漸と飛鳥寺・元興寺の仏教」	三宅徹誠
6月13日	「考古学からみた飛鳥寺と古代元興寺」	村田裕介
7月11日	「元興寺五重小塔の性格」	狭川真一
8月8日	「板絵智光曼荼羅の文化財科学」	高橋平明 植田直見 韓希妊
9月12日	「考古学からみた中世元興寺」	坂本俊
10月10日	「紙製地藏菩薩立像(おかみさん地藏)が語る 江戸時代の庶民信仰—文化財修復からの発見—」	雨森久晃 高橋平明
11月14日	「江戸時代の元興寺と奈良町」	服部光真
12月12日	「元興寺をめぐる教育と学術」	角南聡一郎
	「元興寺獅子国形仏足石とアジアの仏足信仰」	佐藤亜聖

(参加者総数 381 人)

元興寺ならまち文化講座

「奈良の古社寺の考古学（全8回）」

狭川副所長による文化講座を（宗）元興寺と共催で計8回開催した。

- | | | |
|-----|--------|-----------------------------|
| 第1回 | 6月 8日 | 「平城京と社寺の配置—各社寺の創建事情を整理する—」 |
| 第2回 | 7月13日 | 「元興寺禅室「屋根裏探検」と古材の語り」 |
| 第3回 | 8月10日 | 「興福寺創建 —不比等はなぜあの場所に建てたのか?—」 |
| 第4回 | 9月14日 | 「春日大社の神域と古墳」 |
| 第5回 | 11月 9日 | 「頭塔の考古学 —仏塔としての頭塔を考える—」 |
| 第6回 | 12月14日 | 「東大寺復興 —宋人石工・伊行末の生涯—」 |
| 第7回 | 1月11日 | 「唐招提寺鑑真供養塔と奈良の古式宝篋印塔」 |
| 第8回 | 2月 8日 | 「長谷寺の前身寺院 —飯降石薬師磨崖仏と銅板法華経—」 |

展覧会等の開催支援

平成30年度『発掘された日本列島2018』展（文化庁受託事業）

文化庁（記念物課、平成30年10月の文化庁組織変更で文化資源活用課が引き継いで担当）と開催各館が主催する『発掘された日本列島』展に関する、展示品の貸借、展示プランの作成、展示パネル、キャプション等作成、展示品の点検・集荷、展示・撤収支援、展示品の返却のほか、開催予定館との連絡調整等の多岐にわたる開催支援業務を平成20年度から実施している。

平成30年度は24遺跡約600点の資料を展示した。17件の遺跡の最新成果が展示されたほか、「装飾古墳を発掘する!」と題した特集展示が行われた。

入館者数についてはのべ190日間の開催で89,286人であった。

平成30年度 開催館、開催期間および入館者数

東京都江戸東京博物館	平成30年 6月 2日～ 7月22日	72,154人
石川県立歴史博物館	平成30年 8月 4日～ 9月 9日	5,093人
岐阜市歴史博物館	平成30年 9月22日～10月31日	5,951人
広島県立歴史博物館	平成30年11月14日～12月24日	3,398人
川崎市市民ミュージアム	平成31年 1月 8日～ 2月17日	2,690人

大阪大谷大学博物館（大阪府富田林市）秋季特別展「江戸時代の河南町」展示支援
展示資料の梱包、輸送、展示作業を行った。

元興寺文化財管理業務

世界遺産元興寺と所有文化財の管理指導として、境内環境の管理と、法輪館の展示管理業務等を行った。

6. 報告書、書籍等の刊行

『元興寺文化財研究所研究報告 2018』(1,500 冊)

(公益財団法人 荏原 畠山文化財団助成事業)

研究員が科学研究費等の研究活動や仕事を通じて得た新しい所見や発見について報告を行う年報として場として刊行している。

平成23年度からは(公財)荏原 畠山文化財団の助成金による事業として実施している。

『仏法元興一法興寺の遺産・元興寺への道程一』(1,500 冊)

元興寺創建千三百年記念企画展『仏法元興一法興寺の遺産・元興寺への道程一』の図録を刊行した。

『屋根裏探検』(1,500 冊)

元興寺創建千三百年を記念した国宝元興寺禅室の特別公開に際し、図録『屋根裏探検』を刊行した。

『大元興寺展』(1,500 冊)

元興寺創建千三百年記念特別展『大元興寺展』の図録を刊行した。

『平安京左京九条三坊九町 烏丸町遺跡発掘調査報告書』

平成29年に発掘調査を行った京都市平安京左京九条三坊九町烏丸町遺跡の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『藤原京左京二条四坊 出合・膳夫遺跡発掘調査報告書』

—平成29年度発掘調査報告書—

平成29年に発掘調査を行った藤原京左京二条四坊 出合・膳夫遺跡の発掘調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『四天王寺亀井堂石造物調査報告書』

平成27年度から継続して調査をおこなった四天王寺亀井堂石造物調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

『高野山奥之院大名墓調査報告書』

平成27年度から継続して行ってきた奥之院大名墓調査の内容をまとめた報告書を刊行した。

7. 体験活動等

研究、調査成果を還元し、文化財保護の重要性に対する深い理解と関心を高めることを目的として実施している。

春期企画展関連企画

バスツアー「飛鳥から奈良へー瓦と材木の道をたどる」

開催日 平成30年4月15日(日) 参加者数 33名

日本最初の仏教聖地法興寺(飛鳥寺)から、瓦などの建築部材を平城元興寺へ移動した手段を、飛鳥川の水運を利用したと想定して、当研究所研究員の解説によりバスで各地のゆかりの史跡に立ち寄りながら元興寺に向かった。

出発地の飛鳥寺、途中の秦楽寺^{じんらくじ}、賣太神社^{めだ}に拝観し、文化財等を見学した。

橿原市藤原京資料室では、当研究所が実施した藤原京遺跡発掘調査の成果を踏まえて解説を行った。

ウォーキング「飛鳥に残りし大寺を訪ねて」

開催日 平成30年5月6日(日) 参加者数 34名

当研究所研究員の解説により、飛鳥寺から出発し、周辺遺跡、川原寺などを巡って、当日開催される特別講演会会場の明日香村中央公民館まで向かうウォーキングツアーを実施した。

世界遺産・元興寺国宝禅室『屋根裏探検』

開催期間 平成30年 6月16日(土)～ 7月16日(月・祝)

平成30年10月13日(土)～11月11日(日)

参加者数 合計 3,867名

元興寺が飛鳥から平城京に移り1300年となる節目の年に、平城遷都1300年の平成22年以来8年ぶりに国宝禅室の屋根裏を再び公開した。

見学者にはヘルメットを用意し、ガイドの案内により特設の階段から屋根裏へ実際に上り、懐中電灯を手に建物の構造、部材を間近で見学していただいた。

秋季特別展関連企画

実践文化財学 現地学習編「歴史ウォーキングイベント」

「古代・中世の元興寺を歩く」 期 日 10月14日(日)

「元興寺とならまちの伝承を歩く」 期 日 10月21日(日)

「元興寺ゆかりの寺社をめぐる」 期 日 10月28日(日)

参加者数 合計68名

特別展開催準備に伴う調査・研究成果を踏まえて、研究所研究員が講師となり、各テーマに沿って元興寺旧境内域である「ならまち」の歴史ウォーキングを行った。行程のなかで、特別展でご協力いただいた華嚴宗元興寺、小塔院、徳融寺、瓦堂町まんなおし地蔵堂、西光院、十輪院、興善寺にも拝観し、文化財等を見学した。特別展『大元興寺展』の展示解説、元興寺の案内も行った。

国立民俗学博物館「博物館とコミュニティー開発コース」研修員受け入れ

(平成30年10月3日(見学)、11月26日～30日)

国立民俗学博物館が国際協力機構(JICA)から委託を受け実施している博物館学総合研修「博物館とコミュニティー開発コース」のうち、「資料の保存と修復」について担当し、エクアドル、ヨルダン、パプアニューギニアからの研修員3名に対し5日間の研修を行った。

シルクロードが結ぶ友情プロジェクト「シリア人専門家研修」研修員受け入れ

(平成30年10月6日～18日、10月31日～11月22日)

奈良県立橿原考古学研究所を中心とする「シルクロードが結ぶ友情プロジェクト実行委員会」が国連開発計画(UNDP)から委託を受け実施している「シリア人専門家研修」のうち、「資料の輸送」及び「資料の応急処置」について担当し、それぞれ研修員3名に対し8日間、17日間の研修を行った

博物館実習の受け入れ

近畿大学4名、奈良大学11名、立命館大学1名、京都女子大学4名の合計20名を受け入れた。

施設見学会

個人向けの見学会は、7月11日(水)、8月8日(水)、9月12日(水)、10月10日(水)、11月14日(水)、12月12日(水)、1月9日(水)の7回開催し、参加者は61人となった。

その他、奈良女子大学附属中学校、奈良大学大学院、京都府立大学、奈良女子大学、甲南大学、京都橘大学、東北芸術工科大学、大谷大学、追手門大学、関西大学、関西大学大学院、京都造形芸術大学などの教育機関や、福岡県宗像市議会事務局、奈良県地域振興部観光局観光プロモーション課、京都府精華町文化財保護審議会、岡山県総社市文化財審議委員会、宝塚文化財ガイドソサエティ、東芝ITコントロール(株)など26団体(総数470人)の見学を受け入れた。

第2号議案

令和元年度定時評議員会の開催（招集）について

定款第18条及び第19条の規程に基づき、下記のとおり令和元年度定時評議員会を招集（開催）したいので、議決を求めます。

記

1. 日 時 令和元年6月25日（火） 13時30分から

2. 場 所 奈良ホテル「大和の間」（奈良市高畑町1096）

3. 議 題

第1号議案 平成30年度事業報告並びに平成30年度貸借対照表及び損益
 計算書（正味財産増減計算書）及び財産目録の承認について

第2号議案 理事及び監事の選任について

第3号議案 評議員の選任について

以上

